

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570103087		
法人名	有限会社旭ケアサービス		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	宮崎県宮崎市橋通東1丁目5番2号 (電話) 0985-25-6555		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月28日

## 【情報提供票より】 (平成20年9月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤6人, 非常勤3人, 常勤換算7.23人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 367 円
	夕食	368 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月18日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	1	要介護4	0
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 80.4歳	最低 61歳	最高 90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山胃腸科クリニック、若草病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

角地にあるホームは、西側に道を挟んで市役所があり花壇の色とりどりの花が利用者を楽しませている。元旅館だったこともあり、広く明るいロビーでは談笑やテレビを見たり、“その人らしく”の理念の下にゆったりとした生活をしている。周囲はホテルの駐車場になっていて2階にあるホームは見晴らしが良く花火大会は窓から楽しめる。利用者の尊厳を守りつつ趣味を生かし、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう、優しく見守り何でも相談できるような、心温まる支援をしている。買い物、散歩、近隣との交流にも力を入れホームが孤立しないよう気を配っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流や防災訓練、利用者の外出等が事あるごとに話し合わせ、毎日の散歩や買い物を取り入れたり、消防団の一員として学んだりしている。地域の交流では、地域の人と花壇の花を植えたり、地域で開かれる会議に出席しており、管理者・職員一人ひとりに改善内容に取り組む姿勢がみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を管理者、職員が十分理解しており、記録にまとめてある。その記録を基にミーティングや勉強会で確認したり、運営推進会議でも検討課題として取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域との交流や防災訓練、利用者の外出等が検討されている。職員が消防団の一員として学んだり、買い物や毎日の散歩も取り入れている。地域の交流では、地区の祭りや会議に参加する等真剣に取り組んでおり、運営推進会議を役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談、苦情窓口が設置してあり、利用者の日常生活の様子を「太陽便り」によって知らせたり、受診の結果も報告していく中で、次第に家族との連携も深まっている。調査当日も家族の方が来訪されていたが、何でも相談されていて、それにも笑顔で対応していた。
重点項目④	ホテル街という立地条件の中で、地域のお祭りや運営推進会議に参加される地区代表、民生委員との関わりを密にしている。地域発足の「宮崎レミニ会」に参加してなじみを持ったり、職員が消防団の一員として連携を図ったり、地域に何とかして受け込もうとする、職員一人ひとりの思いが感じ取れた。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関、食堂に毛筆による手書きの理念が掲げられており、利用者の“その人らしく”を続けられる独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を管理者、職員が共有できるよう、そして日々の支援の実践に取り入れようと努力している。	○	月に1回のミーティングでしか、理念を確認する機会が無いのもっと深く話し合いがなされるよう期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの西側に、道を挟んで市役所がある。周囲はホテルとその駐車場という立地条件の下で、花の苗をもらって近隣の方々と植えたり、地域のお祭りへの参加や地域発足の宮崎レミニ会主催の「夏のしゃべり場」などにも積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており評価の結果を記録にまとめ、ミーティングや、2か月に1回の運営推進会議等で報告をしたり、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回定期的に行われており管理者や家族代表、地区役員、民生委員の参加があり、意見も活発に出されており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近いこともあり、相談事があると、その都度足を運び報告、相談を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している「太陽便り」は、写真入りの手作り新聞にコメントを入れ、日常の利用者の楽しい様子を知らせている。健康状態や買い物などの領収書も同封し、家族の安心感を得られるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情や不満をしっかりと受け止める姿勢があり、玄関に苦情箱が設置されている。年に2回の家族会でも受け入れ、要望を聞きそれを月1回のミーティングで話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は職員の退職が多く、物事を系統立てて計画することができてなかったが、管理者との話し合いの場を多く持つことで、利用者のことを考慮できる体制ができてきている。	○	月に1回のミーティングでは、職員の意見や気づきを自由に受け入れることが難しいと思うので、今以上に職員間の交流を図り向上心を育てることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外の研修会に参加しており、その復命書を通して、他の職員も学んでいる。書類を通じ研修会の日時を知らせてあり、休日でも研修が受けやすいようにしている。	○	復命書に全員の捺印があると、研修を自分のものとして一人ひとりの向上心が更に高まることと思われるので今後期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し、同業者との意見交換を行っている。講習会で得た知識を職員間で共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や家庭から、いきなりグループホームの生活へというのではなく、今まで使い慣れた小物や、家庭でなじんでいた装飾品やタンス等を置いたりすることで場の雰囲気を作り、その中で職員が優しく声を掛けたり、他の利用者との関係もうまくいくように気を配っている。家族との相談も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意志を尊重し、理念を共有しながら、俳句の得意な人や、手芸、絵画などを職員が教わったり、どんな事でも言える雰囲気づくりに取り組んでいる。利用者の描いた絵画、俳句、手芸の小袋が展示されていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の言葉や日々の行動、表情の中から、何をどのようにしたいのかを話し掛けながら把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、職員の気づき等をとらえ、ケア関係者から近況の様子を聞きケアカンファレンスを行い、状況に沿った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画、3か月に1回全員の見直しが行われている。状況の変化が見られる場合にはその都度、本人、家族との話し合いを行い現状に沿った新たな計画を作成している。どの点から見ても、誰が見てもしっかり近況が把握できる介護計画書の見直しがなされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の付き添いや、買い物、散歩、散髪など本人や家族からの要望を受け入れ、それに対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月掛りつけ医の往診があり、その結果を家族に報告している。家族からの意見も随時、掛りつけ医に相談されている。病院の受け入れも良く病状に合わせて内科、外科、歯科、精神科等適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のことは家族との話し合いをすることもあるが、終末期に対しての話し合いは職員間でもまだ行われていない。	○	利用者の日常生活の延長がここにあると思われるので、終末期のあり方について、早い段階からの本人、家族、掛りつけ医、ケア関係者との話し合いの場を作ることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報については管理している。入居の際に個人情報の承諾書を作成している。言葉や対応にも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その日を一人ひとりの体調に合わせて、そのときの気持ちを尊重し、職員が利用者に合わせて気持で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った材料を使い利用者の好みを取り入れている。鯖の煮つけの献立だったが、嫌いな人には肉を使った料理が準備してあった。会話も弾み和気あいあいの中で楽しく食事が進んだ。食器を洗う人、テーブルを拭く人、運ぶ人とそれぞれのペースに合わせた支援をしていた。	○	献立も、旬の物が取り入れられ、味付けも利用者の方々が、美味しいと口々に言いながら食べておられたが、同じ物を職員が食べていないので会話が弾まなかった。同じ物を食べることで、好みもわかってくるので、これからの食事の取り組みに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後入浴になっているが希望があれば午前中でも入浴できるよう、利用者に沿った支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴を取り入れ、得意とする趣味を声かけして励まし、展示して他の利用者や家族に見てもらったり、力を与え、張り合いを持たせ喜びのある日々を送れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の生活に散歩を取り入れ、周辺の花を見に行ったり、本人の希望に沿って出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない事の意義を理解したうえで支援している。玄関にはチャイムが設置され玄関に人が立つと知らせる仕組みになっている。見守りを徹底し行動やその人の様子を知り、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。消防署の協力を得て地域との連絡も密にしている。ホームが2階にあるので毎日の支援の中でも考慮している。職員が消防団に加入するなど地域と協働している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に基づいてバランスのよい食事であり、食事チェック表、水分チェック表があり一人ひとりに配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂、トイレ等の共用空間には、生花や利用者と共に作った手作りの飾り物で季節感を出したり、利用者の描いた絵や、俳句、布小物も展示されている。ソファの置かれたリビングで談笑したり、テレビを見たり居心地良く過ごせるよう工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人のこれまで使い慣れた小物や飾り、タンス等なじみの物を置くことで安心感を与えている。本人や家族と相談しながら工夫している。		

※  は、重点項目。